

[通常機体] シ R 「機動戦士ガンダム」

## ジム III

機体名	ジム III	画像
型式番号	RGM-86R	
英語名	GM III	
所属	地球連邦軍	
パイロット		
装甲材質	チタン合金、一部ガンダリウム合金を採用	
装備	ミサイルポッド×2 ミサイルランチャー×2 ビームサーベルビームライフルバルカン砲×2	
作品名	機動戦士ガンダム	
参考書籍	アクシズの脅威 V データベース B-CLUB 70SD ガンダム G ジェネレーションスピリッツ MS 大 全集 2006	

### 内容

#### G ジェネスピリッツ

連邦軍の汎用量産型 MS。

RGM-79 ジムの発展型である。

マイナーチェンジ機であるジム IIとは異なり、新技術を積極的に取り入れ、生産性を保ちつつ性能を向上させることに成功している。

オプション兵装として肩部や腰部に各種ミサイルランチャーを装備することが可能で、支援用 MS として運用されることが多い。

グリプス戦争末期からジム IIとの交替が進められ、第2ネオ・ジオン抗争の時代まで連邦軍の主力 MS として用いられた。

#### MS 大全集 2006

一年戦争時代に量産された RGM-79 の発展型、

RGM-79R はマイナーチェンジにとどまったが、この機体は生産量を重視しながらも、新技術を積極的に取り入れている。

特筆すべき点は、オプション兵装として各種ミサイルを装備したことで、RGN-86R は支援用モデルスーツとして確立したといえよう。

#### アクシズの脅威 V

第1次ネオ・ジオン戦争時に活躍した、ジム IIの発展機。

ジム IIに大幅な改修が施され、新技術の投入や基礎設計の見直しが図られている。

優れた機体性能と高い生産性の両立に成功した、完成された機体と言える。

#### B-CLUB 70

RGM-179 が改修版だったのに対し、この RGM-86 は、完全に再設計された機体である。

ジェネレータの出力強化は言うにおよばず、各種アビオニクスや制御システムも、ジオン系技術を取

入れ、大幅に強化されている。

だがこの GMIII が登場した時期は、MS の恐竜的進化が極限まで到達しつつあった時期で、それでもなお、パワー不足ではあった。

また基本設計に無理を強いた部分があり、以後の発展性にとぼしく、以外に短命で終わった。

配備が始まったのは 0088 からで、シャアの反乱時 0093 まで使用されていた。

しかし間もなく登場した RGM-89J の方が総合性能ではるかに勝っており、徐々に退役していった。

総生産数も GM シリーズの中では最も少ない、わずか 800 機程度にしかすぎない。

また先にも書いたように発展性がなく、宇宙型の R 型と、地上用の G 型以外の派生型は、試作程度の数しか作られなかった。

この GMIII が仇になったのか、以後、連邦軍の主力 MS には、GM の名を冠せられる事がなくなった。

なおこの時期、秘かに MSZ-006 の量産計画も進んでいた。

かつて RX-78 から RGM-79 が生まれたように。

だが、その結果生まれた RGZ-91 リ・ガスィ (リファイン・ガンダム ) じゃ極めて高価すぎ、この頃から連邦軍は、大型 MS 維持に疲弊していくのである。

## 備考

### 関連機体

- ・ ジム III (エウゴ仕様)
- ・ ヌーベルジム III

## スペック

項目	内容
全高	
頭頂高	18m
全長	
本体重量	38.6t
全備重量	56.2t
ジェネレーター出力	1560kw
スラスター推力	81200kg
センサー有効半径	10900m